

## はじめに

鳥取県教育委員会は、本県の今後の幼児教育の在り方について検討するため、「鳥取県の幼児教育の在り方検討委員会」を設置しました。本委員会では、本県の幼児教育に係わる幼稚園・保育所関係者、小学校関係者、学識経験者、保護者、社会教育関係者、行政関係者を委員として委嘱し、検討・協議を重ねてまいりました。本冊子は、その協議内容を踏まえ、これからの幼児教育の方向性や具体的な取組、施策等を示すために、「鳥取県幼児教育振興プログラム」としてまとめたものです。

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期です。また、家庭での人間関係を軸にして営まれていた生活からより広い生活に目を向け始め、人間関係や興味・関心、生活の場が急激に広がり、これまでの依存した生活から自立した生活へと向かう時期であるとも言えます。

しかしながら、近年、都市化、核家族化、少子化等社会環境の変化は、幼児の生活にも大きな影響を与えています。本県においても、基本的な生活習慣の遅れや直接体験の不足、幼児期に体得すべき集団遊びをとおした我慢する力や相手を思いやる気持ちが十分でないといった指摘がされています。また、子育てに自信がない、どのように子どもと接したらよいかかわからないといった子育て不安を持つ保護者も少なくありません。

このような状況の中、幼稚園や保育所においては、幼児の道徳性の芽生えや感性、想像力、思いやりの心などの豊かな人間性を育む幼児教育の充実とともに、子育て支援を行う幼児教育センターとしての機能を担うことが期待されています。

本県では、ふるさと鳥取の自然・文化との出会いやかかわり合い、地域の人々との交流活動や集団活動など豊かな体験をとおして、心豊かでたくましい子ども、ふるさとに誇りと自信をもつ子どもの育成をめざしています。

各市町村及び幼児教育関係者においては、各地域の実情に応じた幼児教育の充実を図るため、本プログラムを積極的に活用されることを望んでいます。

最後に、本プログラム作成のために真摯にご協議いただいた鳥取県の幼児教育の在り方検討委員会委員の皆様はじめ、多くの意見を寄せてくださった皆様に深く感謝申し上げます。

平成16年5月

鳥取県教育委員会教育長

藤 井 喜 臣